

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200028		
法人名	特定非営利法人だいの花		
事業所名	特定非営利活動法人小規模多機能型居宅介護だいの花		
所在地	岐阜県関市西神野605の1		
自己評価作成日	平成21年11月4日	評価結果市町村受理日	平成22年2月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190200028&SCD=730
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)	家庭的な雰囲気のなかでその人らしさを大切に介護
--------------------------------	-------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誰もが「住み慣れた自宅で、馴染みある地域の人と暮らし続けたい」の想いを、小規模多機能型居宅介護サービスの利点を活かし実現させている。利用者は、地域の人と双方向の交流で元気になり、季節に合わせて外出し穏やかに暮らしている。職員は、家庭の延長と捉え日々工夫しながら見守るケアで支援している。細やかな注意深い見守りをする事で、病気の予兆を見つけ病院受診をすすめ、早期発見し健康維持につなげている。又、個別性を大切にして、一人ひとりの好みや特性を理解し、意向を聞きだしながら、専門性を活かした介護計画をたて支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中でその人らしさをたいせつにしましょう	職員は、理念を常に意識して毎日のケアに活かしている。家庭の延長と思ってもらい、地域の人とのつながりを大切に、個別の対応を心がけて理念を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通して、日々の散歩時、交流センターの活用(喫茶店を利用する)を、充実させる	地域に出掛けたり、農業センター職員、中学生、婦人部などの訪問を受けている。クリスマス会への招待や、野菜栽培ハウスの草取り等をして、地域の一員として交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や、日々の散歩時での会話を通して理解を、得て行く。機会あるごとにも伝えている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の開催時には意見も多くあるため必ず意見を聞き確認し、改善すべき事は改善し、なるべく意見にそう努力をしている	運営推進会議での意見(曜日の変更、備品の充実)を取り入れ、改善計画を作っている。家族が参加しやすい時間設定をする等、工夫しているが出席者が限られてしまう為、幅広い意見があまり活かされていない。	サービスの向上の為に、地域の多職種の人材の出席を求め、活発な意見交換が出来るように取り組んで欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回必ず出席をお願いして、報告を行うと共に疑問に思うことや、市の考えを拝聴している。また、会議出席の家族にも沢山の話をしてもらっている	法律上での問題や、サービスについての相談をしている。スプリンクラーの設置、予防接種など細かな所まで担当者話し合い、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時等で全体で意識をたかめ、拘束をしないケアをみんなで話し合い実践している	身体拘束について、職員全員がミーティング時に話し合っている。転倒防止のベッド柵2本についても職員が話し合いを重ね、見守りを強化することにより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時等全体で意識をたかめ、職員同士の注意により絶対に行わない方向で常に意識して仕事を行っている		

小規模多機能 だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会のある限りは出来るだけ多くの職員の研修の参加を進めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援専門員による十分な説明を行い、疑問な事はその場で解消している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いている	連絡帳、電話、送迎時等、顔を見る機会を大切にして家族との信頼関係を築き、要望を聞いている。意見を職員全員で話しあい、運営に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や日々の申し送り時に意見を聞く	皆と一緒に仕事をする中で、時間を見つけ雑談形式で、気楽に話し合えるようにしている。また、夜勤になる時間や、個別に話し合う時間を作り、職員の意見を聞いて運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の意見を上司に伝え、相談を行う		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の積極的参加を呼びかけている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会参加、外部よりの訪問の受け入れを積極的に受け入れる、又外部訪問を行うように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前よりゆっくり話を聞く、開始してからも続行していく		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス前よりゆっくり話を聞く、開始してからも続行していく、通いの送迎時を利用するなどしてできるだけ沢山の意見や考えを聞くようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前よりゆっくり話を聞く、開始してからも続行していく		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスをしていくなかで性格を把握し、相談しながら行っていく		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議等を活かして関係作りを行う努力		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望むことは出来る限りの努力をして実行する向きでいるものの支援して行けるものが限られてくる	本人の希望を伝え家族支援の外出に繋げている。馴染みの訪問者と外出したり、近隣の知人宅へ出掛け、来訪時には湯茶の接待をしている。年賀状を手作りして、馴染みの人との関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しのある人同士の同席、そうではない人には、職員が間にはいる		

小規模多機能 だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院者や他施設入居者の訪問を行う、電話が入った時等は対応をしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話聞く、希望に沿う努力、情報の共有、検討する	昔話や、仕事の話等から本人の希望を聞いている。家族からの情報や、顔色を見たり、表情で意向の把握をしている。また、尋ね方も利用者が答えやすいように工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報把握をするべく、訪問して話しを聞くことや、以前の情報を入手して事前の情報としている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを必ず行う、連絡ノートを活用する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等を行う	本人や家族の希望・有する能力を活かし職員の意見を検討し計画をたてている。定期的担当者会議には家族も参加し、泊まりの希望を組み込んだり、意見を聞きながら本人に沿った計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記帳しやすい、又読みやすい帳票作成に努める		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎時の家族よりの申し送りとうをいかしている		

小規模多機能 だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、近隣者よりの情報、民生委員との交流を行う		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族、本人の意思、受診の必要性が発生した時は、お願いや、話し合いを行う	かかりつけ医受診時は、介護記録を家族に手渡し、事業所での状況を提供している。利用者の会話の変化や、入浴時に皮膚の変化を見つける等、即家族に連絡して、適切な医療が受けられる支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内では、申し送りの徹底、外においては、管理者、ケアマネ、看護師より家族に情報を流している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談員と連絡を取り合う		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の出来る範囲の説明そのうえでの相談を行う、地域は、必要に応じた対応をしている	早い時期から話し合いを重ね、重度化した場合、構造面から対応が困難な事を伝えている。状態変化ごとに話し合いながら、出来る限りの支援をしている。職員も、終末期に関する方針を共有し、事業所全員で支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの活用、内勉強会を活かす		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている	避難訓練は定期的に行っている。居室が二階にあり、夜間想定しての訓練は検討中である。火災報知機誤作動で近隣の出勤が得られた。しかし正式に共同訓練や、協力体制、連絡網などまだ充分には機能していない。	二階にある事業所からの避難、夜間想定しての訓練や、連絡網等を整備してほしい。地域との協力体制作りを運営推進会議等で検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングによる共有	入浴時の着脱は、職員の見守りの立ち位置に配慮したり、トイレ内にカーテンを設置し、介助時への工夫をしている。プライバシーに関する話は、利用者に配慮し、話し方や声かけにも留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話に耳をかたむける。話をする		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思を尊重して日々の生活をおこなっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を活用、季節に合う衣類の助言		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などは本人嗜好をとりいれたり特性を活かした料理を出す。又準備や片付けの支援	食事は、皆で食べたい物を聞きながら献立を立てている。車椅子の人も、得意なことを一緒にしながら調理をしている。好みに合わせ代替食事を準備し、楽しく食べれるように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調状態を把握するなど看護師中心に行う、水分補給の時間の確立		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必至		

小規模多機能 だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用でパターンをつかむ、毎朝の申し送り時もおしおくに職員の情報の共有をすることでかなりの対応ができています	個々に合わせた声かけや誘導でオムツを減らしている。排泄表に自分で印をつけ不安な時は、職員と相談して内服等、自己管理している利用者もいる。お茶を準備するなど個々に合わせた便秘予防の支援もしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用でパターンをつかむ、職員の情報の共有、薬品の活用、飲食物の工夫での支援		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの時間を聞き個々の希望に沿う努力をしている 午後入浴や、朝入浴を実施している	午前・午後・夜間の希望にあわせて入浴を楽しむことができる。拒否があっても無理強いせず、時間を置いたり、足浴や安心できる声かけ等を工夫している。入浴剤など好みに合わせて対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人の希望通りにし、日中をとおして休みたいとき休みたい場所で休息をとってもらう		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬剤情報を徹底して申し送る、実行し、日々家族と連携をとっている、体調変化の留意する		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報、家族の情報、本人との会話からつかみ活かす努力をし日々の生活からもつかむ努力をする		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況、希望に沿う努力、施設内行事での外出の強化に努める	夫と一緒にいった思い出の場所への外出や、寺への参拝を支援している。紅葉狩り、桜見物等希望を取り入れたり、地域の行事への誘いにも出かけ楽しんでいる。又天気の良い日は散歩や、大型スーパーなどへも出かけている。	

小規模多機能 だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る人は、家族の協力、理解のもとに、外出時とうの買い物支援を行う		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿う努力をしていますが、制約はしてはいない		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さは充分確保できていりわけではないが好みのソファや、場所、温度は常に気遣う体制、工夫により満足出来るものになるよう臨んでいる	クリスマスツリーや、秋には木の葉を皆で飾って季節を感じる工夫をしている。足元の冷える人には、ペットボトルを湯たんぽにして個別の対応をしている。自然な明るさで、室温も程よく不快な臭気もない。階段の傾斜はゆるやかで自由に行き来できる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や、配慮で場所確保に努める気持ちを養う努力や、支援		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望の物を拒否することはしていない。強要することもない、寝衣は本人の物をしようしている、温度などは、本人の好みにしている	泊まりの部屋は、表札を付け同じ部屋が使えるようにし、好みの厚さの布団も用意している。使い慣れたアンカや目覚まし時計、髭剃りなどを持参し、カバンや服を目に付きやすい場所に置くなど混乱しない工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別のケア、個々の力を活かす生活ができるような支援		